

# 町内会と行政の連携でコロナ危機を打破



未来 勝浦正樹

**地域包括ケアシステム**  
**問** 地域包括ケアシステムの意義や目的が市民に浸透しているか。  
**答** 小地域ケア会議の設置は約7割であり、市民と連携した施策のさらなる充実が必要である。

**シルバー人材センター**  
**問** 高齢者が活躍できる環境づくりの推進としてシルバー人材センターへさらなる支援が必要では。  
**答** 新たな事業の開拓にも期待しており、効果的な事



**空き家対策**  
**問** 空き家対策は、町内会との連携が必要では。  
**答** 町内会の方と緊密な連携や情報共有を図りながら取り組む。

**ため池管理**  
**問** ため池の調査や維持管理は適切に行われているか。  
**答** 毎年、ため池管理者に管理シートへの提出を求めるなど維持管理状況は把握している。

**その他の質問項目**  
**◆美作大学の公立化について**  
 業推進の支援を図っていく。

# 地域商品券でなく直接給付すべき！



市民が第一 政岡大介

**新型コロナウイルス対策**  
**問** 地域商品券、水道料金減免の事業費約4億円を特別定額給付金に加算して市民に直接給付すべき。  
**答** 新型コロナウイルス感染症に対する経済対策は、地域経済維持などの観点から本市独自の施策を行ってきた。独自の施策に加えて地域経済活性化に資する施策が必要と認識しており、地域商品券事業を実施するもの。プレミアム分の30%を合わせ、総額6億5,000万円



本当に必要な道路改良を

**道路改良**  
**問** 城下と城西地区を結ぶ道路改良事業の莫大な事業費は若者・子どもたちに大きな負担になるのでは。  
**答** 関係者の声を聞き、財源も慎重に判断し、検討していきたい。

が市域で還流することで経済循環を促すものと考える。

# 市民一人一人に目を向け、人に優しい市政を



市民が第一 河村美典

**学校施設整備**  
**問** 小中学校のエレベーター設置状況と未設置校への設置予定は。  
**答** 小中学校のうち、小学校4校、中学校6校が設置されており、改築や大規模改修の際に設置しており、未設置校へは、各校の施設の整備改修計画を策定する中で検討していく。

**ガラスハウス**  
**問** 来年3月に契約満了となるガラスハウスは、4月以降どうするのか。  
**答** サウンディング



ガラスハウス上空（ドローン撮影）

**その他の質問項目**  
**◆新型コロナウイルス対策について**  
 グ型市場調査では、プール利用ではなく、別用途での施設利用の提案を頂き、改めて民間にとつて魅力的な施設になることを確認した。自分ごと化会議などで、市民から頂いた意見も参考に、民間活力の導入による、実現性の高い具体的な方法や枠組みについて検討していく。

# 水道基本料 未普及世帯への対応がないのは？



令和倶楽部 金田稔久

**水道基本料金減免事業**  
**問** 水道基本料金減免事業がコロナ対策で実施されたのならば、未普及など減免されていない260世帯への手当はどう考えているのか。  
**答** 市民生活への影響に鑑み、公共料金負担軽減の観点から実施する。

**要望活動**  
**問** 令和3年度重要事業提案書が作成されたがどのよう要望活動をしたのか。  
**答** 関係省庁等に要望活動を実施している。今年度は



**総合戦略**  
**問** コロナ禍となり、総合戦略の見直しは。  
**答** 来年度の総合計画後期策定と並行して整理を図りたい。

**通信制高校**  
**問** コロナ禍となり、リモート授業を導入された中、ポスト作陽として通信制高校への対応を。  
**答** 多様な教育が得られる津山を指したい。

県へ要望を実施し、国へは提案書を送付した。

# 可燃ごみ収集日の見直し



未来 村上祐二

**環境整備**  
**問** 可燃ごみ収集日(週2回)のところで水曜日・金曜日のように中1日と4日になっていく地点の割合は。月曜日・木曜日のように中2日と中3日に見直すことは出来ないか。  
**答** 約53%の地点がそうなっている。現状の収集日程が定着している。収集日の変更は、様々な課題を整理する必要がある。

**他都市で実践している「レジ」での「有料レジ袋」の代わりに**



ごみ収集日の変更は？

**「可燃ごみ指定袋」の販売が好評とのことだが。**  
**答** 本市も注目している。今後、先進事例や他都市の動向を注視していく。

**その他の質問項目**  
**◆危機管理(雨水対策)について**  
**◆インフラ整備について**

# コロナ後のまちづくり



令和倶楽部 西野修平

**農業**  
**問** 市長は就任時、もうかる農業をキャッチフレーズに農林部を立ち上げられた。今こそ若者が就農で生計を立てられるチャンスではないか。もっと速いテンプで農業に取り組んでいただきたいだろうか。  
**答** 現在のコロナ禍において、地方での暮らしが見直されており、この機に就農を考える方が増えることが考えられるので、より就農しやすい環境づくりを整備



することが必要となる。先日、農林部として、ウェブを活用した移住相談会に参加するなど、機会を捉えて就農相談を受けている。今後は就農する農地のあっせんなど、より就農しやすい環境づくりスピード感を持って取り組んでいきたい。